

## 製品安全データシート(SDS)

## 1. 製品および会社情報

製品名	ピーコン バードフリー低臭 ハト用
会社名	環境機器株式会社
住所	大阪府高槻市川西町1丁目26-5
電話番号	072-681-1175
FAX番号	072-681-1177

## 2. 危険有害性の要約

## GHS 分類

## 【物理化学的危険性】

火薬類	[分類対象外]	自然発火性液体	[分類対象外]
可燃性/引火性ガス	[分類対象外]	自然発火性固体	[分類対象外]
可燃性/引火性エアゾール	[分類対象外]	自己発熱性化学品	[分類対象外]
支燃性/酸化性ガス	[分類対象外]	水反応可燃性化学品	[分類対象外]
高压ガス	[分類対象外]	酸化性液体	[分類対象外]
引火性液体	[分類対象外]	酸化性固体	[分類対象外]
可燃性固体	[区分外]	有機過酸化物	[分類対象外]
自己反応性化学品	[分類対象外]	金属腐食性物質	[分類対象外]

## 【健康に対する有害性】

急性毒性(経口)	[区分外]	皮膚感作性	[区分外]
急性毒性(経皮)	[区分外]	生殖細胞変異原性	[区分外]
急性毒性(吸入:ガス)	[分類できない]	発がん性	[分類できない]
急性毒性(吸入:蒸気)	[分類できない]	生殖毒性	[分類できない]
急性毒性(吸入:粉塵)	[分類できない]	特定標的臓器毒性(単回暴露)	
急性毒性(吸入:ミスト)	[分類できない]		[分類できない]
皮膚腐食性/刺激性	[区分外]	特定標的臓器毒性(反復暴露)	
目に対する重篤な損傷/眼刺激性		(肺)	[分類できない]
	[区分外]	吸引性呼吸器有害性	[分類できない]
呼吸器感作性	[分類できない]		

## 【環境に対する有害性】

水生環境急性有害性	[分類できない]
水生環境慢性有害性	[分類できない]

GHS ラベル要素

【絵表示又はシンボル】

なし

【注意喚起語】

なし

【GHS 分類に該当しない他の危険有害性】

- ・ 特異臭により人によっては気分が悪くなるおそれがある。
- ・ 肌荒れや皮膚乾燥等では皮膚内に成分が浸透するおそれがあり、洗っても落とせない可能性がある

【注意書き】

[安全対策]

- ・ 火気の近くでは使用しないこと。
- ・ 保護手袋, 保護眼鏡, 保護面, 保護衣を着用すること。
- ・ 万一飲み込んだ場合は医師の手当てを受けること。
- ・ 施工後は石けんと水で手を洗うこと。

[応急措置]

- ・ 皮膚についた場合, 大量の水と石鹼で洗うこと。

[廃棄]

- ・ 市町村の区分に従って廃棄すること。

以下の点については, GHS 分類結果より GHS ラベル要素は非該当であるが, 取り扱い時には注意する。

[安全対策]

- ・ 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
- ・ 環境への放出を避けること。

[応急措置]

- ・ 万一飲み込んだ場合は医師の手当てを受けること。
- ・ 目に入った場合は, 直ちに大量の水で洗い流すこと。
- ・ 吸入した場合, 被災者を空気の新鮮な場所に移し, 呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・ 気分が悪い時は, 医師の診断あるいは手当を受けること。
- ・ 漏出物を回収すること。

## [保管]

- ・ 直射日光の当たらない冷所に食品や飼料等と区別して、子どもやペットの手の届かない場所に保管すること。

## 3. 組成および成分情報

単一製品・混合物の区別	混合物		
成分及び含有量	成分	CAS No.	含有量
	ポリイソブチレン	9003-27-4	>76±15%
	Grease(ミネラルオイル)	64742-54-7	>23.1±15%
	ペパーミントオイル	8006-90-4	>0.6±15%
	シナモンオイル	8015-91-6	>0.3±15%
化学特性(化学式)	非公開		
官報公示整理番号	非公開		

## 4. 応急処置

吸入した場合	新鮮な空気のある場所に移し、必要なら医師の診断を受ける。
皮膚に付着した場合	水と石鹼で付着した部分を洗う。もし、皮膚が赤くなったり、痒みが生じたりした場合は、医師の診断をうける。 洗っても皮膚への付着が落ちない時は、医師の診断を受ける。
目に入った場合	清浄な水で15分洗った後、眼科医の診断を受ける。
飲み込んだ場合	無理に吐かせないで、直ちに医師の診断を受ける。口の中が汚染されている場合は、水で十分に洗う。

## 5. 火災時の措置

消化剤	霧状の強化液, 泡, 粉末, 炭酸ガス。
使ってはならない消化剤棒状の水。	
特定の消化方法	初期の火災には、粉末, 炭酸ガス消火剤を使用する。大規模火災の際には、泡消化剤, 霧状の強化液を使用する。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項	作業の際には適切な保護具を着用する。
環境に対する注意事項	回収物や使用したウエス等は法規に従って処分する。
除去方法	ヘラ等でできるだけ多く空容器に回収し、残りはウエス等で拭き取る。
二次災害の防止策	付近の着火源となるものをすみやかに取り除き、消化用器材を準備する。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

## 取扱い

技術的対策	保護眼鏡や保護手袋等の適切な保護具を着用し、直接の接触を避ける。
注意事項	作業場の換気を十分に行なう。吸入、皮膚への接触を防ぎ、また、目に入らないように適切な保護具を着用する。忌避成分の特異的な臭いにより、人によっては気分が悪くなる可能性があるが、一過性のもので後遺症などを引き起こすことはない。気分が悪くなった場合は、直ちに作業を止める。
安全取扱注意事項	火気注意。

## 8. 暴露防止及び保護措置

## 設備対策

蒸気又はミストが発生する場所は発生源の密閉化又は局所排気装置を設ける。電気機器類は防爆構造のものを用いる。取扱い場所の近くに洗眼及び身体洗浄の為の設備を設ける。

## 管理濃度

設定されていない。

(作業環境基準:労働省告示第26号,平成7年3月27日)

## 許容濃度

日本産業衛生学会

設定されていない。(2001年度版)

ACGIH

設定されていない。(2001年度版)

## 保護具

呼吸用の保護具

通常通りの取扱いにおいては特に必要なし。蒸気又はミストが発生する場合は有機ガス用を着用する。

手の保護具

耐油性の手袋。

眼の保護具

飛沫が飛ぶ場合は普通型保護眼鏡。

皮膚及び身体の保護具

通常の長袖作業服。

## 9. 物理的及び化学的性質

## 物理的状态

形状

粘ちょうバター状。

色

淡黄色。

臭い

ハーブの香りを持つ特異臭。

## 物理的状态が変化する特定の温度/温度範囲

沸点	データなし.
融点	180°C以上. (@JIS k2220-5.4 滴点)
分解濃度	データなし.
引火点	240°C
発火点	データなし.
爆発限界	データなし.
蒸気圧	極めて小さい.
密度	0.9g/cm <sup>3</sup> (@15°C)
溶解性	水に不溶. ベンゼン及びトルエンなどの石油系溶剤に溶解する.

## 10. 安定性及び反応性

安定性	室温では安定.
反応性	水との反応性はない.
避けるべき条件	強酸化剤(混触禁止物質)との接触.

## 11. 有害性情報

急性経口毒性	ラット(雄, 雌) LD <sub>50</sub> >2,000 mg/kg [区分外]
急性経皮毒性	ラット(雄, 雌) LD <sub>50</sub> >2,000 mg/kg [区分外]
目刺激性	ウサギ 刺激性なし. [区分外]
皮膚刺激性	ウサギ 刺激性なし. [区分外]
皮膚感作性	モルモットに対して5%の割合で感作あり. [区分外]
変異原性	マウス 異常なし. [区分外]
発ガン性	データなし. [分類できない]
生殖毒性	データなし. [分類できない]
特定標的臓器毒性(単回暴露)	データなし. [分類できない]
特定標的臓器毒性(反復暴露)	データなし. [分類できない]
吸引性呼吸器有害性	データなし. [分類できない]

## 12. 環境影響情報

水生環境急性有害性	データなし. [分類できない]
水生環境慢性有害性	データなし. [分類できない]
移動性	環境に排出された場合, 土壤に移動する可能性がある.
残留性/分解性	生分解性は低いと考えられる.

生態毒性	魚毒性 コイ LC <sub>50</sub> (96h) >100 mg/L
13. 廃棄上の注意	
残余廃棄物	焼却炉で少量ずつ焼却処分するか，都道府県知事等の許可を受けた産業廃棄物処理業者もしくは地方公共団体がその処理を行なっている場合にはそこに委託して処理する。
汚染容器・包装	市町村の区分に従って廃棄すること。
14. 輸送上の注意	
国連分類	国連勧告の定義上危険物に該当しない。
国連番号	非該当。
国内規制	消防法 非危険物 海上輸送および航空輸送非危険物。
15. 適用法令	
消防法	指定可燃物可燃性固体類(非危険物)。
労働安全衛生法	政令第18条の2別表第9の168 鉱油 >20%
化学物質管理促進法(PRTR法)	第一種及び第二種指定物質 非該当。
水質汚濁防止法	油分排出規制。(許容濃度5mg/lノルマルヘキサン抽出物として)
海洋汚染防止法	油分排出規制。(原則禁止)
下水道法	鉱油類排出規制。(5mg/l)
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物規制。(拡散，流出の禁止)
16. その他の情報	
引用文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「産業衛生学雑誌」(2001/7)日本産業衛生学会</li> <li>・「TLVs and BEIs」(2001) ACGIH</li> <li>・原材料の製品安全データシート</li> <li>・IRAC MONOGRAPHS ON THE EVALUATION OF THE CARCINOGENIC RISK OF CHEMICALS TO HUMANS VOLUME</li> <li>・製品安全データシートの作成指針(改訂版)</li> </ul>

日本化学工業協会

記載内容の取扱い

本文書の記載内容は、当社の最善の知見に基づくものですが、情報の正確さ、完全性を保証するものではありません。この情報は新しい知見及び試験等により改正されることがあります。

全ての化学品には未知の有害性がありうるため、取扱いには細心の注意が必要です。ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるようお願い申し上げます。